

こどもにすすめたい本 2023



「大ピンチずかん」
鈴木のりたけ／作
小学館

山梨県内の図書館員が、昨年1年間に出版された図書の中から
「こどもにすすめたい本」110冊を選びました。

山 梨 県 立 図 書 館
山 梨 県 公 共 図 書 館 協 会

幼児向け



『いってらっしゃーい』
りとうようい／作・絵
金の星社 ¥1,400 (税別)

家族のために、命がけで魚を取ってくるペンギンのお父さんが主人公。魚の群れを発見し、どっさり獲物を得て帰ろうとすると、何匹ものアホウドリに魚を横取りされ、その後、アザランにも襲われ…。海の中には危険がいっぱい！



『えんどうまめばあさんとそらまめじいさんのいそがしい毎日』
松岡享子／原案・文 降矢なな／文・絵
福音館書店 ¥1,200 (税別)

小さな家に暮らし、朝から晩までまめまめしく働くえんどうまめばあさんと、そらまめじいさんの忙しく、楽しい一日が描かれている。「『暮らす』ということが大事」と言う作者の思いが詰まった一冊。



『くみたて』
田中達也／作
福音館書店 ¥1,400 (税別)

洗濯ばさみがブランコに変身するなど、様々な日用品や食べ物を、建物や遊具、電車などに見立てるミニチュア写真の絵本。細かい部分まで作りこまれており、組み立てたものが何に変身するのか、想像力をかきたてられる。



『くらべるえほん たべもの』
ちかつたけお／作・絵
Gakken ¥1,300 (税別)

左右のページに並んでいる二つのよく似た食べ物。でもよく観察してみると、何か違っている。どこが違うか、自由に考え答えてみよう。食べ物への興味を広げ、考える力を育む、違い探しの絵本。



『こどもに聞かせる一日一話』
福音館書店「母の友」編集部／編
福音館書店 ¥1,500 (税別)

忙しくて子どもとの時間が取れない日常でも、一話ずつ声で読み聞かせ、親子一緒に物語を楽しんでほしい、と願いを込めて書かれた30編の短い童話を収録。「ぐりとぐら」「だるまちゃん」「ぐるんば」など、人気絵本の主人公も登場。



『ともだち』
くすのきしげのり／作 よしむらめく／絵
小学館 ¥1,500 (税別)

みずきは隣に越して来た男の子に勇気を出して挨拶したが、男の子は両手の人差し指を曲げるばかり。実は男の子は手話で挨拶をしており…。違いを知り、手話を学ぶことで、互いに理解し合える事を気づかせてくれる一冊。



『ばあ！』
さこももみ／作 アーキ・ヴォイス／監修
マイクロマガジン社 ¥1,400 (税別)

「びーか・ぶー！」「おった・かっくん！」「きーけ・ぶー！」両手で顔を隠し、パッと顔を見せる遊びで唱えるこれらの言葉の意味は何だろう？答えは3つとも全て同じ。世界の「いない・いない・ばあ！」に出会える絵本。



『ぶるばびぶーん』
ささきしゅん／作
福音館書店 ¥1,000 (税別)

「ぶるん ぶるん ぶるばびぶーん」。ユニークなエンジン音を響かせて走るのは、1台の小さな赤い車。「よっこらぶーん」は坂道を上る時の音。車の動きとテンポ良く重なり、声に出して読みたくなる変幻自在なエンジン音が魅力の一冊。

その他のおすすめの本

『いっこでもにくまん』
ふじもとのりこ／作 世界文化ワンダークリエイト ¥1,200 (税別)

『いろってなあに？』
アリス&マーティン・プロベンセン／さく・え こみやゆう／やく KTC中央出版 ¥1,800 (税別)

『こうもり』
アヤ井アキコ／作 福井大／監修 偕成社 ¥1,500 (税別)

『ごめんねゆきのバス』
むらかみさおり／作 文溪堂 ¥1,400 (税別)

『これ、なーんだ？』
momo編集部／文 今井しのぶ／写真 マイルスタッフ ¥1,500 (税別)

『こんとごん』
織田道代／文 早川純子／絵 福音館書店 ¥900 (税別)

『ずぼっじー』
高橋祐次／作 講談社 ¥1,200 (税別)

『ちいさいひなた』
山田美津子／作・絵 佼成出版社 ¥1,400 (税別)

『どんぐりころころむし』
澤口たまみ／文 たしろちさと／絵 福音館書店 ¥900 (税別)

『なにになれちゃう？』
チャーヒカル／著 白泉社 ¥1,200 (税別)

『2ひきのカエル』
クリス・ウォーメル／作・絵 はたこうしろう／訳 徳間書店 ¥1,800 (税別)

『ピンポン！つぎとまります』
五味ヒロミ／文 さとうめぐみ／絵 交通新聞社 ¥1,200 (税別)

小学生(低学年)向け



『給食室のいちにち』

大塚菜生/文 イシヤマアズサ/絵
少年写真新聞社 ¥1,700 (税別)

みどり小学校の栄養士、山川さんと7名の調理員は、450人分の給食を作る。身支度や検品、調理の細かな工程も描写され、安全で栄養満点の給食が子どもたちに届くまでがよく分かる。おいしそうな香りが漂ってくるような絵も見どころ。



『けんかのはな』

ラッセル・ホーバン/作 大野八生/絵 小宮由/訳
岩波書店 ¥1,300 (税別)

お父さんが仕事から帰宅すると、猫と犬、4人の子どもたちが大げんかの真っ最中。理由をたどると、けんかのはなは意外なところにあり…。果たして仲直りはできるのか。オチに思わずくすっとしてしまう、ユーモアたっぷりのお話。



『ここがわたしのねるところ』

レバッカ・ボンド/文 サリー・メイパー/作画 まつむらゆりこ/訳
福音館書店 ¥1,300 (税別)

ぬくもりのある刺しゅうで描かれた世界各国の子どもたちのねるところ。ハンモックや屋上など各地域の気候に合わせた寝室の特徴や、ぐっすり眠るための工夫を知ることができる。心地よいリズムの言葉でつづられ、安らぎにあふれた一冊。



『だいたいところのたね』

久保秀一/写真 大久保茂徳/監修
ひさかたチャイルド ¥1,300 (税別)

子どもたちが大好きなポップコーンやいちごはどようやってできる? いちごや金時豆、ゴマなど、台所にある野菜や果物の種を土に蒔き、実がなるまでを写真で紹介する。観察する楽しさと、科学的思考を育む一冊。食育の本としてもおすすめ。



『大ピンチずかん』

鈴木のりたけ/作
小学館 ¥1,500 (税別)

牛乳がこぼれた、ガムを飲み込んでしまったなど、子どもの日常に起こる大ピンチを、大ピンチレベルと5段階の「なりやすさ」で分類し、イラストと共に紹介する。子ども一人で読んでも、親子一緒に読んでも楽しい絵本。



『「はやく」と「ゆっくり」』

張輝誠/文 許匡匡/絵 一青妙/訳
光村教育図書 ¥1,400 (税別)

小学生のぼくは、両親に朝から晩まで「はやくはやく」とせかされる。祖父母の家に行くと、今度は「ゆっくり ゆっくり」と、食べ物の味や自然を感じてほしいと言われる。両親と祖父母の間にはさまれ困ったぼくが取った行動とは。



『ふじさんにつぼんいち!』

佐野亮/監修 峯村温/他写真
ひさかたチャイルド ¥1,300 (税別)

日本一高い山、富士山に登ると、途中で木はなくなり、草が生えなくなる。なぜだろう? 地面にたくさんある石は穴だらけ。どんな種類の石? 富士山の不思議や魅力、山の成り立ち、生息する動植物などを写真とわかりやすい説明で伝える。



『へんしん』

桃山鈴子/作 井上大成/解説・監修
福音館書店 ¥1,400 (税別)

昆虫画家の作者が3種類のチョウ、モンシロチョウ、ナミアゲハ、ウラギンシジミの一生をじっくり観察し、点で描いた美しい絵本。小さな卵から、色も形も違うイモムシになり、脱皮を繰り返してチョウに変身するまでがよくわかる。

その他のおすすめの本

『いもうとなんか知らない』

ロイス・ダンカン/作 平澤朋子/絵 小宮由/訳 岩波書店 ¥1,300 (税別)

『ウマと話すための7つのひみつ』

河田棧/文・絵 偕成社 ¥1,300 (税別)

『オハヨウどろぼう』

おのりえん/文・絵 理論社 ¥1,200 (税別)

『かみなり』

妹尾堅一郎/監修 音羽電機工業「雷写真コンテスト」/協力 ポプラ社 ¥1,600 (税別)

『ことばコレクター』

ピーター・レイノルズ/作 中川千尋/訳 ほるぷ出版 ¥1,500 (税別)

『ゾウのじょうおうさま』

ジュン・スモールズ/文 しもかわらゆみ/絵 あまがひひろみ/訳 イマジネーション・プラス ¥1,700 (税別)

『どうしよう』

浜田桂子/作 理論社 ¥1,450 (税別)

『ともだちはしおりのこぶた』

真山みな子/作 山西ゲンイチ/絵 金の星社 ¥1,300 (税別)

『やまの動物病院』

なかがわちひろ/作・絵 徳間書店 ¥1,700 (税別)

『よるのあいだに…』

ポリー・フェイバー/文 ハリエット・ホプデイ/絵 中井はるの/訳 BL出版 ¥1,600 (税別)

『ららんランドセル』

モリナガ・ヨウ/著 めぐるむ ¥1,600 (税別)

『わたしがいいじわるオオカミになった日』

アメリ・ジャヴォー/文 アニック・マソン/絵 ふしみさを/訳 バイインターナショナル ¥1,600 (税別)

小学生(中学年)向け



『あっちもこっちもこの世はもれなく』
いとうみく／作 ころりよ／絵
PHP研究所 ¥1,400 (税別)

小学4年生の公太は、背が低いことが悩んだ。バレーボールクラブで頑張っているが、背が高い友人、希来里だけスタメンに選ばれ、不公平だと思ふ時がある。だが、ある時、希来里にも悩みがあると知り…。



『海をわたる動物園』
いちかわけいこ／作 村田夏佳／絵
アリス館 ¥1,400 (税別)

戦争中に動物がいなくなった日本の動物園のために、戦後アフリカから動物を船で運ぶことになった。その船に乗り合わせた主人公シュンが飼育に関わった2か月間を描く。動物たちの知られざる生態が興味深い。実話を基に書かれた本。



『お山のライチョウ』
戸塚学／写真・文 小宮輝之／監修
偕成社 ¥1,600 (税別)

20年以上、立山でライチョウを撮影している写真家による写真絵本。高い山に住むライチョウの生態から、ライチョウが暮らす環境の悪化と原因、絶滅の危機までを伝える。山梨県南アルプス市の北岳におけるライチョウ保護活動も紹介。



『かず』
神永暁／監修
講談社 ¥2,500 (税別)

日本語には様々な表現方法があり、言葉だけでは伝わりにくいものも多い。本書は一丁、一ぱいなどの数え方、一尺、一合といった昔の単位など「数」を表す表現を、イラストや写真を使ってわかりやすく説明している。



『神社のえほん』
羽尻利門／作
あすなろ書房 ¥1,400 (税別)

神社に初詣に来たばかりは、おじいちゃんに神社が何のためにあるか聞いてみた。おじいちゃんは同級生の宮司を紹介してくれて…。神社の参拝の作法、ご神体、祭礼、働く人たちなどをイラスト付きで紹介する一冊。



『すごいゴミのはなし』
滝沢秀一／文 スケラッコ／絵 萩原まお／絵
Gakken ¥1,300 (税別)

お笑い芸人で清掃員でもある筆者が、活動を通じて体験したことやゴミ問題を、ユーモラスな文体で紹介する。世界のゴミ事情、珍しいゴミ、収集車の解説、悪臭の原因などの知識から、「ゴミ」とは何か?という問いと答えまで盛りだくさん。



『バスが来ましたよ』
由美村嬉々／文 松本春野／絵
アリス館 ¥1,400 (税別)

病気で目が見えなくなった男性は、通勤バスを逃すまいと、耳をすましてバス停で待つので、気を張る日々を過ごしていた。ある朝、「バスが来ましたよ」という女の子の声が聞こえて…。実話を基に、男性と小学生の温かな交流を描いた絵本。



『和ろうそくは、つなぐ』
大西暢夫／写真・文
アリス館 ¥1,500 (税別)

和ろうそくの工房から話は始まる。工程をたどると、蠟の原料のハゼの実を搾ったカスは藍染職人が使い、藍染で使い終わった灰は焼き物職人のもとへ…。不要となったものも捨てることなく循環させる、昔ながらのモノ作りを伝える写真絵本。

その他のおすすめの本

『オオムラサキと里山の一年』
筒井学／写真・文 小学館 ¥1,300 (税別)

『おなかをすかせたドラゴンとためいきゼリー』
仁科幸子／作 あすなろ書房 ¥1,300 (税別)

『おはなしのたねをまくと…』
クワクワイ・ゴッペッティ／文 ティヤナ・ニコワ／絵 いのうえさあや／訳 関口英子／監修 工学図書 ¥1,800 (税別)

『クーちゃんとぎんがみちゃん』
北川佳奈／作 くらはしれい／絵 岩崎書店 ¥1,100 (税別)

『戦争をやめた人たち』
鈴木まもる／文・絵 あすなろ書房 ¥1,500 (税別)

『そうだったのか! 国の名前由来ずかん』
西村まさゆき／著 タラジロウ／絵 辻原康夫／監修 ほるぷ出版 ¥2,900 (税別)

『タヌキの土居くん』
富安陽子／作 大島妙子／画 福音館書店 ¥1,100 (税別)

『鳥は恐竜だった』
鈴木まもる／作 アリス館 ¥1,800 (税別)

『なりたいたたし』
村上しいこ／作 北澤平祐／絵 フレーベル館 ¥1,300 (税別)

『はだしてあるく』
村中季衣／文 石川えりこ／絵 あすなろ書房 ¥1,500 (税別)

『火の山にすむゴリラ』
前川貴行／写真・文 新日本出版社 ¥1,700 (税別)

『ふしぎなメリーゴーラウンド』
リーザ＝マリー・ブルーム／作 こやまこいこ／絵 はたさわゆうこ／訳 徳間書店 ¥1,500 (税別)

小学生(高学年)向け



『押す図鑑 ボタン』
西村まさゆき／編・著
小学館 ¥1,150 (税別)

自動販売機、電卓、リモコンと身の回りはボタンであふれている。ボタンを押すことで機械が動き、社会が動く。ボタンの仕組みを、写真と共に詳しく解説する図鑑。レトロ自販機、海外版キーボードなど大人もうなるマニアックな内容も掲載。



『考えると楽しい地図』
今和泉隆行／著 梅澤真一／監修
くもん出版 ¥1,300 (税別)

地図は難しい? 見てもつまらない? 方位や地図記号などの基本から、待ち合わせで失敗しない地図の読み方、ラーメン屋開店に向く場所探しなど、想像力を働かせる応用まで、問題形式で楽しく学ぶことができる「地図嫌い」必携の一冊。



『自由を求めて冒険へ!』
春間豪太郎／著
日本標準 ¥1,500 (税別)

ラクダやロバなどの動物たちとモロッコ、チュニジア、キルギスを旅した著者の心躍る冒険記。様々な人々の暮らしや価値観に触れながら、旅の目的を達成するために、失敗や成功を繰り返して、レベルアップしていく姿が描かれている。



『女王さまのワードローブ』改訂版
ジュリア・ゴールディング／文 ケイト・ヒンドレー／絵 前沢朋枝／訳
BL出版 ¥2,000 (税別)

2022年に96歳で惜しまれつつ世を去ったイギリスのエリザベスⅡ世。ファッションリーダーとしても有名だった彼女の一生を、色とりどりの衣装と共に振り返るユニークな伝記。色使いの美しい挿絵にも引きつけられる。



『知らなかった! おなかのなかの赤ちゃん図鑑』
増崎英明／監修 WILLこども知育研究所／編著
岩崎書店 ¥3,600 (税別)

受精から出産まで、赤ちゃんの成長過程を、イラストと写真でわかりやすく説明した図鑑。生命の不思議を感じ、尊さを学ぶことができる。一つの細胞、受精卵が、どのように人となっていくのか、大人が子どもに伝える時にも役に立つ本。



『世界の市場』
マリヤ・バーハレワ／文 アンナ・デスニツカヤ／絵 岡根谷美里／訳
河出書房新社 ¥1,820 (税別)

世界12か国24都市の市場の様子を紹介する。売られている物の説明や、買い物の際の便利な会話表現、市場の歴史など情報が盛りだくさんで、実際に世界を旅しているかのように楽しめる。日本と異なる食や文化に発見が尽きない。



『本おじさんのまちかど図書館』
ウマ・クリシュナズワミー／作 川原瑞丸／絵 長友恵子／訳
フレーベル館 ¥1,400 (税別)

ヤズミンの楽しみは、毎日「まちかど図書館」に行き、本を借りること。ところがある日、大切な図書館が存続の危機に! 市長選に注目したヤズミンは、選挙によって大切なものを守ろうと奮闘する。選挙・政治に参加する大切さも学べる物語。



『ラベンダーとソプラノ』
額賀澤／作 いつか／絵
岩崎書店 ¥1,500 (税別)

真子の所属する合唱クラブは、コンクールで金賞を、という重圧の中、厳しい練習が続いていた。不登校になる下級生も現れ、クラブに疑問を感じ始めた時、真子は商店街の合唱団と出会う。彼らと一緒に歌ううちに真子は大切なことに気づく。

その他のおすすめの本

『アーマのうそ』
キャロル・ライリー・プリנק／作 堀川理万子／絵 谷口由美子／訳 文溪堂 ¥1,600 (税別)

『かわいい子ランキング』
ブリジット・ヤング／作 三辺律子／訳 ほるぷ出版 ¥1,600 (税別)

『クジラの進化』
水口博也／文 小田隆／イラスト 木村敏之／監修 講談社 ¥1,900 (税別)

『黒紙の魔術師と白銀の龍』
鳥美山貴子／著 講談社 ¥1,400 (税別)

『18枚のポートレート』
柏葉幸子／著 植田たてり／画 理論社 ¥1,300 (税別)

『女子サッカー選手です。そして、彼女がいます』
下山田志帆／著 米村知倫／イラスト 偕成社 ¥1,500 (税別)

『ソロ沼のものがたり』
館野鴻／作 岩波書店 ¥2,000 (税別)

『たぶんみんなは知らないこと』
福田隆浩／著 しんやゆう子／イラスト 講談社 ¥1,400 (税別)

『寝るのが楽しくなる睡眠のひみつ』
ウィッキー・ウッドゲート／文・イラスト 山崎正浩／訳 創元社 ¥2,000 (税別)

『ももちゃんのピアノ』
柴田昌平／文 阿部結／絵 ポプラ社 ¥1,500 (税別)

『ライトニング・メアリ』
アンシア・シモンズ／作 カシワイ／絵 布施由紀子／訳 岩波書店 ¥1,900 (税別)

『忘れもの遊園地』
久米絵美里／著 かわいみな／絵 アリス館 ¥1,400 (税別)

中学生・高校生向け



『ウシのげっぶを退治しろ』
大谷智通／著 小林泰男／監修
旬報社 ¥1,600 (税別)

ウシのげっぶに含まれ、地球温暖化に影響するメタン。メタン問題の研究者と、塗料の原料として輸入された「あるもの」が奇跡的に出会い、メタン削減飼料が生まれた。この飼料の話を中心に牛の生態、未来の畜産、新たな温暖化対策を学べる。



『絵で旅する国境』
クドル／文 ヘラン／絵 なかやまよしゆき／訳
文研出版 ¥2,500 (税別)

「鳥や魚は自由に行き来できるけれど、船や飛行機では自由にこえられない線」、国境。人が決めた線であるが故に、検問所や壁など閉ざされた国境もあり、国同士の関係性も読み取れる。日本では意識しづらい国境について詳しく学べる。



『「オードリー・タン」の誕生』
石崎洋司／著
講談社 ¥1,500 (税別)

ITを活用した素早い感染症対応で世界から注目された台湾のIT相オードリー・タン。優れた才能を持ち、15歳で起業するなど、恵まれて見えるが、いじめや体罰で不登校となった過去があった。困難の中で今も歩み続けるオードリー・タンの伝記。



『笹森くんのスカート』
神戸遙真／著 みずす／絵
講談社 ¥1,400 (税別)

突然、スカート姿で登校してきた笹森くん。人気者のイケメンがなぜ?ジェンダーフリー制服が導入されたばかりの高校で、様々な憶測が飛び交う。4人の同級生と笹森くんの視点で描く、世間の常識に疑問を投げかける爽やかな青春小説。



『作家たちの17歳』
千葉俊二／著
岩波書店 ¥880 (税別)

太宰治、芥川龍之介など、教科書で名前を目にする著名な作家たちは、10代をどのように過ごし、何に影響を受けたのか、当時の日記や著書を用いてひもとく。文学に興味がある人だけでなく、人生の岐路で悩む中高生に手に取ってほしい一冊。



『さばの缶づめ、宇宙へいく』
小坂康之／著 林公代／著
イースト・プレス ¥1,500 (税別)

2020年に野口聡一宇宙飛行士が宇宙で食べ話題になった「サバ醤油味付け缶詰」。生徒の何気ない一言から始まった「宇宙食さば缶」作りが、どのように行われ、その後JAXAに正式認証されたのか。福井県立若狭高校の生徒たちの努力を描いた一冊。



『「死んでもいいけど、死んじゃだめ」と僕が言い続ける理由』
大空幸星／著
河出書房新社 ¥1,420 (税別)

悩みがある時や「望まない孤独」に陥った時は、人に相談をして欲しい。問題が整理でき、解決に向かうことがある。著者の子どもの時代のつらい経験と、人の悩みを24時間チャットで聞く現在の活動から生まれた、中高生に伝えたいメッセージ。



『スクラッチ』
歌代朔／作
あかね書房 ¥1,500 (税別)

「総体」が中止となり行き場のない怒りを感じていたバレー部の鈴音は、不注意から美術部の千晧の作品を汚してしまい…。コロナ禍で様々な行事が実施できず、当たり前前の日常を奪われながらも前を向き進んでいく中学生たちの物語。

その他のおすすめの本

『あの子のことは、なにも知らない』
栗沢まり／作 中田いくみ／絵 ポプラ社 ¥1,500 (税別)

『生きのびるための「失敗」入門』
雨宮処凜／著 河出書房新社 ¥1,420 (税別)

『ウクライナから来た少女ズラータ、16歳の日記』
ズラータ・イヴァシコワ／著 世界文化ブックス ¥1,500 (税別)

『大人になるってどういうこと?』
神内聡／著 くもん出版 ¥1,500 (税別)

『ごはん食べにおいでよ』
小手鞠るい／作 satsuki／画 講談社 ¥1,400 (税別)

『13歳からの地政学』
田中孝幸／著 東洋経済新報社 ¥1,500 (税別)

『ソノリティ』
佐藤いつ子／著 KADOKAWA ¥1,500 (税別)



『千に染める古の色』
久保田香里／著 紫昏たう／絵
アリス館 ¥1,400 (税別)

時は平安時代。右大臣、藤原実資の娘の千古姫は、女性が成人になる儀式「裳着」が近づいていた。新しい衣装の布を見た姫は、源氏物語の衣装の再現を思いつき…。目次の「かさねの色目」で色の組み合わせを見ながら読むとわかりやすい。



『タガヤセ！日本』
白石優生／著
河出書房新社 ¥1,420 (税別)

日本の農業の「今」を「国家公務員YouTuber」の視点で発信！機械化と技術の高さにより超優秀な日本の農畜産物から、食品ロス・食料自給率などの問題にまで目を向け、農業の未来を語る。生きるために不可欠な「食」を支える農業の魅力が満載。



『“正しい”を疑え！』
真山仁／著
岩波書店 ¥860 (税別)

自分や世間が当然だと思っていることは、本当に「正しい」のか。著者は現代社会の裏側を鋭く描き出す小説家。SNSやメディアから発信される多数の情報をうのみにする危険性を説きながら、情報を見極める方法を記した一冊。



『中高生のスポーツハローワーク』
中高生のスポーツハローワーク編集部／編著
Gakken ¥1,800 (税別)

「スポーツにかけた時間と努力」は「貴重な財産」。競技者以外のスポーツに関わる仕事を、実例で多数紹介。現場で働く先輩の声、進路の選び方などスポーツ大好き中高生に向けた情報が満載。未来を切り開くヒントが見つかるはず！



『手で見るぼくの世界は』
樫崎茜／作 酒井以／画
くもん出版 ¥1,400 (税別)

祐は視覚支援学校で同じクラスの双葉が転倒事故後に不登校となり心配している。自らは、友人関係の葛藤や白杖歩行への不安も抱える。視覚に障害のある二人が世界をどう見ているのか、外出時の恐怖をどう乗り越えて成長するかを描く物語。



『パンに書かれた言葉』
朽木祥／作
小学館 ¥1,400 (税別)

現代の中高生は、身近な人から戦争体験を聞く機会があるだろうか。主人公エリーは日本とイタリア、双方の祖父母から、戦争を学ぶ。祖父母も孫に伝えることで、戦時中からの想いを昇華させていく。戦争体験を次代へ引き継ぐ物語。



『ぼくたちはまだ出逢っていない』
八束澄子／作
ポプラ社 ¥1,400 (税別)

いじめや進路に悩む中学3年の陸と、母の再婚相手の家で居場所がないと感じる中学2年の美雨が、「金継ぎ」をきっかけに大切なものや人に出逢う。迷っても自分のペースで進めばいい、と背中をそっと押してくれる一冊。



『魔女だったかもしれないわたし』
エル・マクニコル／著 榎田理絵／訳
PHP研究所 ¥1,400 (税別)

人と違うという理由で迫害された彼女たちは私だったかもしれない、と魔女に共感した自閉症の少女アディは、魔女裁判で命を奪われた人々の慰霊碑づくりを村に提案する。しかし、負の歴史を掘り返したくない人々から相手にされず…。

『空を見上げてわかること』
斉田季実治／著 PHP 研究所 ¥1,300 (税別)

『マスク越しのおはよう』
山本悦子／著 田中海帆／絵 講談社 ¥1,600 (税別)

『なんで信長はお城を建てたの？』
畑中英二／著 にしざかひろみ／画 新泉社 ¥2,000 (税別)

『目で見ることばで話をさせて』
アン・クレア・レソット／作 横山和江／訳 岩波書店 ¥2,100 (税別)

『ぼくたちのスープ運動』
ベン・デイヴィス／作 渋谷弘子／訳 評論社 ¥1,600 (税別)

『ヤングケアラーってなんだろう』
澁谷智子／著 筑摩書房 ¥760 (税別)

『僕らが学校に行く理由』
渋谷敦志／写真・文 ポプラ社 ¥2,200 (税別)

4月23日は「子ども読書の日」



こどもにすすめたい本 2023

令和5年3月31日

編集 山梨県立図書館

山梨県公共図書館協会「こどもにすすめたい本」編集委員会

発行 山梨県立図書館 山梨県公共図書館協会

〒400-0024 山梨県甲府市北口 2-8-1

TEL 055-255-1040 FAX 055-255-1042

URL <https://www.lib.pref.yamanashi.jp/>

Eメール kodomo@lib.pref.yamanashi.jp

- *当館ホームページ上からもこの冊子を見ることができます。
- *本書掲載の記事、イラスト、写真等の無断転載を禁じます。
- *本冊子は、教育機関（小学校、中学校、高校、特別支援学校）におけるプリントアウト、コピー、無料配布ができます。
- 変更・切除などをご遠慮ください。



山梨県立図書館HP